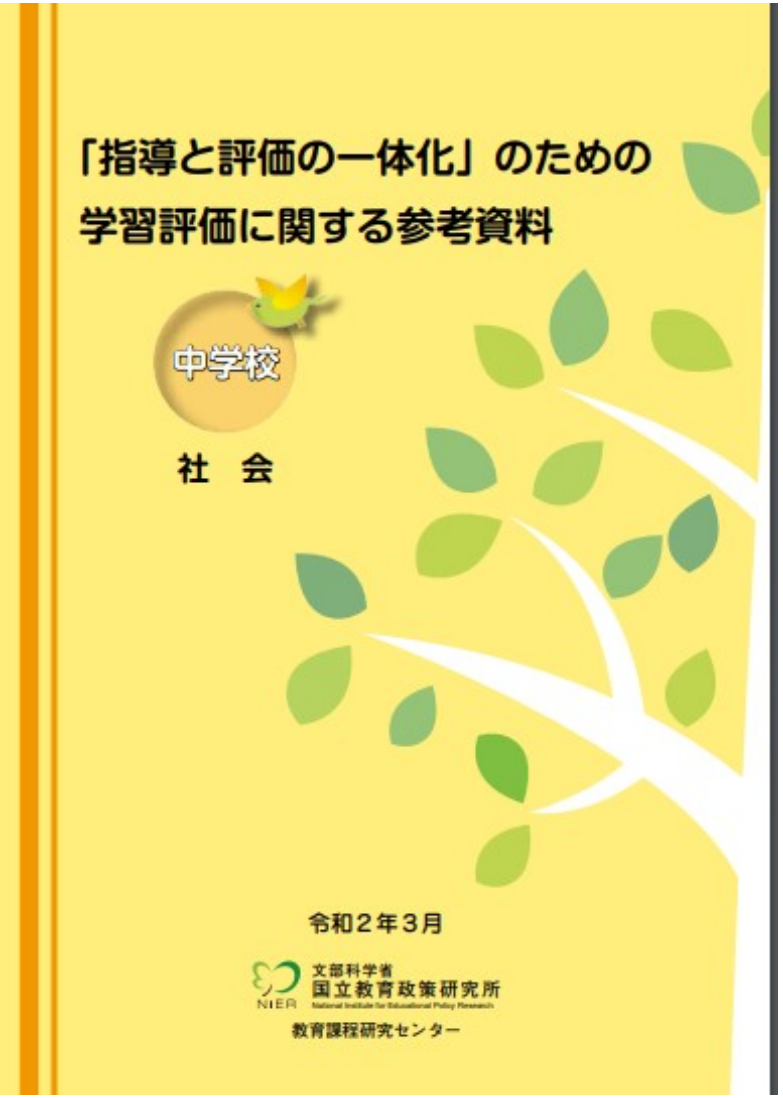
新学習指導要領に対応した学習評価
（中学校　社会科）

文部科学省
初等中等教育局　視学官
藤野　敦

目次



１.中学校社会科における評価の観点の趣旨と「内容のまとまり」ごとの評価規準

２.単元の評価規準とその留意点

３.「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた評価計画と評価方法の工夫

１－①　学習指導要領上の教科目標と，「評価の観点及びその趣旨」の関係

教科目標（中学校学習指導要領　p.41）

社会的な見方・考え方を働かせ，課題を追究したり解決したりする活動を通して，広い視野に立ち，グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

（1）	（2）	（3）
我が国の国土と歴史，現代の政治，経済，国際関係等に関して理解するとともに，調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	社会的事象の意味や意義，特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり，社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力，思考・判断したことを説明したり，それらを基に議論したりする力を養う。	社会的事象について，よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに，多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情，国民主権を担う公民として，自国を愛し，その平和と繁栄を図ることや，他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

観点及びその趣旨　：　改善等通知　（別紙４　p.3）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
我が国の国土と歴史，現代の政治，経済，国際関係等に関して理解しているとともに，調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめている。	社会的事象の意味や意義，特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり，社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したり，思考・判断したことを説明したり，それらを基に議論したりしている。	社会的事象について，国家及び社会の担い手として，よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとしている。

1 -②　中学校社会科における分野別の評価の観点の趣旨

●教科同様に、各分野の目標を踏まえて作成された、各分野別の評価の観点の趣旨を確認する。
「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」(「参考資料」pp.105,109,114参照)

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地理的分野	我が国の国土及び世界の諸地域に関して，地域の諸事象や地域的特色を理解しているとともに，調査や諸資料から地理に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。	地理に関わる事象の意味や意義，特色や相互の関連を，位置や分布，場所，人間と自然環境との相互依存関係，空間的相互依存作用，地域などに着目して，多面的・多角的に考察したり，地理的な課題の解決に向けて公正に選択・判断したり，思考・判断したことを説明したり，それらを基に議論したりしている。	日本や世界の地域に関わる諸事象について，国家及び社会の担い手として，よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究，解決しようとしている。
歴史的分野	我が国の歴史の大きな流れを，世界の歴史を背景に，各時代の特色を踏まえて理解しているとともに，諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。	歴史に関わる事象の意味や意義，伝統と文化の特色などを，時期や年代，推移，比較，相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり，歴史に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したり，思考・判断したことを説明したり，それらを基に議論したりしている。	歴史に関わる諸事象について，国家及び社会の担い手として，よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究，解決しようとしている。
公民的分野	個人の尊厳と人権の尊重の意義，特に自由・権利と責任・義務との関係を広い視野から正しく認識し，民主主義，民主政治の意義，国民の生活の向上と経済活動との関わり，現代の社会生活及び国際関係などについて，個人と社会との関わりを中心に理解を深めているとともに，諸資料から現代の社会的事象に関する情報を効果的に調べまとめている。	社会的事象の意味や意義，特色や相互の関連を現代の社会生活と関連付けて多面的・多角的に考察したり，現代社会に見られる課題について公正に判断したり，思考・判断したことを説明したり，それらを基に議論したりしている。	現代の社会的事象について，国家及び社会の担い手として，現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。

1 -③　中学校社会科における内容のまとまり

（「参考資料」p.27）

〔地理的分野〕

A 世界と日本の地域構成	**(1) 地域構成**
B 世界の様々な地域	**(1) 世界各地の人々の生活と環境**
B 世界の様々な地域	**(2) 世界の諸地域**
C 日本の様々な地域	**(1) 地域調査の手法**
C 日本の様々な地域	**(2) 日本の地域的特色と地域区分**
C 日本の様々な地域	**(3) 日本の諸地域**
C 日本の様々な地域	**(4) 地域の在り方**

〔歴史的分野〕

A 歴史との対話	**(1) 私たちと歴史**
A 歴史との対話	**(2) 身近な地域の歴史**
B 近世までの日本とアジア	**(1) 古代までの日本**
B 近世までの日本とアジア	**(2) 中世の日本**
B 近世までの日本とアジア	**(3) 近世の日本**
C 近現代の日本と世界	**(1) 近代の日本と世界**
C 近現代の日本と世界	**(2) 現代の日本と世界**

〔公民的分野〕

A 私たちと現代社会	**(1) 私たちが生きる現代社会と文化の特色**
A 私たちと現代社会	**(2) 現代社会を捉える枠組み**
B 私たちと経済	**(1) 市場の働きと経済**
B 私たちと経済	**(2) 国民の生活と政府の役割**
C 私たちと政治	**(1) 人間の尊重と日本国憲法の基本的原則**
C 私たちと政治	**(2) 民主政治と政治参加**
D 私たちと国際社会の諸課題	**(1) 世界平和と人類の福祉の増大**
D 私たちと国際社会の諸課題	**(2) よりよい社会を目指して**

中学校社会科では
学習指導要領
「内容」の中項目が
「内容のまとまり」

1-④　中学校社会科における「内容のまとまりごとの評価規準」作成の手順

学習指導要領　中学校社会地理的分野　B世界の様々な地域　(1)「世界各地の人々の生活と環境」

場所や人間と自然環境との相互依存関係などに着目して，課題を追究したり解決したりする活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

知識及び技能	思考力，判断力，表現力等	学びに向かう力，人間性等
(ア) 人々の生活は，その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件から影響を受けたり，その場所の自然及び社会的条件に影響を与えたりすることを理解すること。 (イ) 世界各地における人々の生活やその変容を基に，世界の人々の生活や環境の多様性を理解すること。その際，世界の主な宗教の分布についても理解すること。	(ア) 世界各地における人々の生活の特色やその変容の理由を，その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件などに着目して多面的・多角的に考察し，表現すること。	（※学習指導要領の「2内容」には，「学びに向かう力，人間性等」について関わる事項は示されていない。）

学習指導要領の中項目を基に，「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する。

※「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準は、「分野別の評価の観点の趣旨」における「主体的に学習に取り組む態度」を基に作成する。

内容のまとまりごとの評価規準(例)

※中学校社会科における「内容のまとまりごとの評価規準(例)」（「参考資料」pp.105-118）参照。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・人々の生活は，その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件から影響を受けたり，その場所の自然及び社会的条件に影響を与えたりすることを理解している。 ・世界各地における人々の生活やその変容を基に，世界の人々の生活や環境の多様性を理解している。その際，世界の主な宗教の分布についても理解している。	・世界各地における人々の生活の特色やその変容の理由を，その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件などに着目して多面的・多角的に考察し，表現している。	・世界各地の人々の生活と環境について，よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。 分野別の観点の趣旨参照

2-①　社会科における「単元の評価規準」の作成のポイント　（「参考資料」pp.35-37）

①　年間の指導と評価の計画を確認。
↓
②　学習指導要領の目標や内容，「内容のまとまりごとの評価規準」の考え方等を踏まえ，「単元の評価規準」を作成。

中学校社会科
①　原則として「内容のまとまりごとの評価規準」を基に，
②　各分野の項目構成の特色を踏まえた上で，
「単元の評価規準」を作成する。

※・「内容のまとまり」の一部を単元としたり，
・「内容のまとまり」を超えて単元としたりすることも考えられる。

→　各学校で指導計画や評価計画を作成する際に工夫することが求められる。

2-②　単元における各観点の評価規準の設定に当たっての留意点

①「知識・技能」について

（知識）社会的事象等の特色や意味，理論などを含めた**社会の中で汎用的に使うことのできる概念等に関わる知識を獲得するように学習を設計**することが求められる。

（技能）「中学校学習指導要領解説社会編」の中で，**身に付けるべき技能の例**を整理した。

→単元の目標及び，その評価規準においても，**細かな事象を羅列してその習得のみを求めることのないよう留意**することが必要である。

②「思考・判断・表現」について

各単元において，それぞれの**「見方・考え方」を視野に，具体的な「視点」等を組み込んだ評価規準を設定することが重要**。単元を見通した**「問い」を設定し**，「社会的な見方・考え方」を働かせることで，社会的事象等の意味や意義，特色や相互の関連等を考察したり，社会に見られる課題を把握して，その解決に向けて構想したりする学習を一層充実させることが可能となる。

③「主体的に学習に取り組む態度」について

現実の社会的事象を扱うことのできる社会科ならではの「主権者として，持続可能な社会づくりに向かう社会参画意識の涵養やよりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度の育成」が必要である。

この教科の特性を踏まえつつ，この観点については，**単元を越えて評価規準を設定するなど，ある程度長い区切りの中で評価**することも考えられる。

3-①　「学習改善につなげる評価」と「評定に用いる評価」

日々の授業の中では生徒の学習状況を適宜把握して指導に生かすことに重点を置きつつ，単元を見通して，観点別学習状況の評価をするために必要な記録を取ることになる。

- **「学習改善につなげる評価」…●**
  学習状況を見取り，生徒の成長を認め励ますとともに必要に応じて指導，支援を行う日常の学習改善につなげる評価

- **「評定に用いる評価」…○**
  観点別学習状況の評価や評定のための資料として用いる評価

「参考資料」に示す各事例には，●○という記号を付して，その評価場面を示している。

小単元1

【ねらい】交易の広がりとその影響，統一政権の諸政策の目的などに着目して，事象を相互に関連付けるなどして，多面的・多角的に考察し，表現することを通して，近世社会の基礎が作られたことを理解する。
小単元の学習課題「安土桃山時代の文化は，それ以前の文化とどのような違いがあるのだろうか，またその違いはどのような政治や社会の動きから生まれたのだろうか」

①　1次の課題「ヨーロッパ人はなぜアジアに来たのだろうか」について，資料を活用して考察し，話し合った結果を発表する。	●			・資料から学習上の課題につながる情報を適切に読み取っている。
		●		・1次の課題について，16世紀に至る世界の結び付きなど交易の広がりとその影響などに着目して考察し，相互に結果を表現している。
②　2次の課題「織豊政権下の政策は社会をどのように変えようとしたのか」について，資料を活用して考察し，話し合った結果をワークシートに記入する。	●			・資料から学習上の課題につながる情報を適切に読み取っている
		●		・2次の課題について，中世社会との比較に着目して考察し，相互に結果を表現している。
③　3次の課題「武将や豪商たちの経済力と戦乱の気風は，南蛮貿易や朱印船貿易の影響とともに，日本の社会にどのような変化をもたらしたか」について，資料を活用して考察し，ワークシートに記入する。	●			・資料から学習上の課題につながる情報を適切に読み取っている。
		●		・3次の課題について，当時の政治や文化の動向に着目して考察し，結果を表現している。
④　各次でワークシートに記入した事柄を踏まえて，小単元の学習課題「安土桃山時代の文化は，それ以前の文化とどのような違いがあるのだろうか，またその違いはどのような政治や社会の動きから生まれたのだろうか」について考察し，ワークシートに記入する。		○		・交易の広がりとその影響，統一政権の諸政策の目的などに着目して小単元の学習課題について考察し，結果を表現している。
	○			・「近世社会の基礎が作られたこと」について説明している。
○中項目全体を貫く問いとの関わりを確認する。			●	・自己の学習について振り返り，調整しようとしている。

3-②　評価の方法の工夫　(地理的分野　B(1)「世界各地の人々の生活と環境」を事例に)

（「参考資料」pp.46-53）

＜単元の評価規準の例＞　地理的分野Ｂ(1)世界各地の人々の生活と環境　**※赤字は知識の内容等を具体的に記述した部分**

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・人々の生活は，その生活が営まれる場所の**気温や降水量，標高などの自然的条件**及び，**宗教や歴史的背景，科学技術の発展などの社会的条件**から影響を受けたり，その場所の自然及び社会的条件に影響を与えたりすることを理解している。 ・世界各地における人々の生活やその変容を基に，世界の人々の生活や環境の多様性とともに，世界の主な宗教の分布について理解している。	・**「なぜ世界各地では人々の生活に多様な特色が見られるのか。また，なぜそれは変容するのか」**を，その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件などに着目して多面的・多角的に考察し，表現している。	・世界各地の人々の生活と環境について，よりよい社会の実現を視野に**各地の人々の生活の特色やその変容の理由**を，主体的に追究しようとしている。
「評定に用いる評価」の評価方法の例		
事実的な知識の習得と知識の概念的な理解を問うペーパーテスト，ワークシートへの記述等で評価	グループでの話合いや発表，ワークシートへの記述，思考力を問うペーパーテスト等で評価	単元のまとめのワークシートの記述等で，学習を振り返り，さらに調べたいことやよく分からなかったことを整理し，これからの学習に意欲的に取り組もうとしているかなどを評価

3-③　学習指導要領の学習の構造を踏まえた評価計画（歴史的分野B(3)「近世の日本」を事例に）

知識・技能

(ｱ) 世界の動きと統一事業（省略）

(ｲ) 江戸幕府の成立と対外関係

・江戸幕府の成立と大名統制，身分制と農村の様子，鎖国などの幕府の対外政策と対外関係などを基に

諸資料から歴史に関する情報を効果的に調べまとめ、●

・幕府と藩による支配が確立したことを理解している　○

(ｳ) 産業の発達と町人文化

・産業や交通の発達，教育の普及と文化の広がりなどを基に

諸資料から歴史に関する情報を効果的に調べまとめ、●

・町人文化が都市を中心に形成されたことや，各地方の生活文化が生まれたことを理解している　○

(ｴ) 幕府の政治の展開（省略）

思考・判断・表現

「見方・考え方」を働かせて　課題（問い）

・交易の広がりとその影響，統一政権の諸政策の目的…などに着目して，

（近世の社会の変化の様子を）

・多面的・多角的に考察し，表現している　○

「見方・考え方」を働かせて　課題（問い）

産業の発達と文化の担い手の変化…などに着目して，

（近世の社会の変化の様子を）

多面的・多角的に考察し，表現している　○

中項目のまとめ イ(ｲ)

・近世の日本を大観して，時代の特色を多面的・多角的に考察し，表現している　○

主体的に学習に取り組む態度

・近世の日本について，見通しをもって学習に取り組もうとし ●

・学習を振り返りながら課題を追究しようとしている ●

・学習を振り返るとともに次の学習へのつながりを見出そうとしている。○

次の学習へ

（歴史的分野B(3)「近世の日本」を事例に）「学習過程と評価の構造図」（「参考資料」p.68）

①中項目(=内容のまとまり）が一つの大きな単元としての構造をもつ。

②その中に小単元が含まれる構造である。

③学習指導要領で示された学習の構造を踏まえた学習計画が大切。

④その上で、それに沿った評価計画と評価活動を行うことが重要である。

3 -④「主体的に学習に取り組む態度」の評価　(公民的分野を事例に)

「主体的に学習に取り組む態度」のうち，

- **「自らの学習を調整しようとしながら粘り強く取り組む状況」**については，単元末で，単元の始めに立てた見通しを踏まえて学習を振り返り，次の学習や生活に生かすこととして見いだした内容により評価する。
- **「主体的に社会に関わろうとする態度」**については，単元の学習後も関心をもって自ら追究し続けたい，解決，改善を図っていきたいこととして見いだした，問いの内容とその社会的意義の記述によって評価する。

分野の目標 (3)について

・地理的分野・歴史的分野　「…課題を主体的に追究，解決しようとする態度を養う」

・公民的分野　「現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする態度を養う」

このため，分野の目標を踏まえると、「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準も異なる。

例　「参考資料」事例６（D(1)「世界平和と人類の福祉の増大」）における「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準

【第一次】

単元の始めに見通しを立てさせることがポイント。

●単元の学習課題の解決に向けて，問いに対する答えを予想したり，解決すべき疑問を挙げたりするなど，解決への見通しを立てている。（発言，ノート）

【第三次】

単元の途中で「学習改善につなげる評価」を行い，適切に指導する。

●第一次に立てた見通しを踏まえて，学習を振り返り，次の学習や生活に生かすことを見いだしている。（ワークシート）

●国際社会の動きについて関心をもち，問いを見いだし，その社会的意義を記述している。（ワークシート）

【第六次（単元の終末）】

○第一次に立てた見通しを踏まえて，学習を振り返り，次の学習や生活に生かすことを見いだしている。（ワークシート）

○国際社会や世界平和と人類の福祉の増大について関心をもち，問いを見いだし，その社会的意義を記述している。（ワークシート）

単元の学習を振り返る時間をしっかり確保することが大切。

（「参考資料」pp.92-101）

「参考資料」掲載　各事例概要一覧　（「参考資料」pp.44-101）

事例１　キーワード　評価方法の工夫～思考力等を問うペーパーテストの工夫改善～
単元　世界各地の人々の生活と環境　（地理的分野　B(1)「世界各地の人々の生活と環境」）

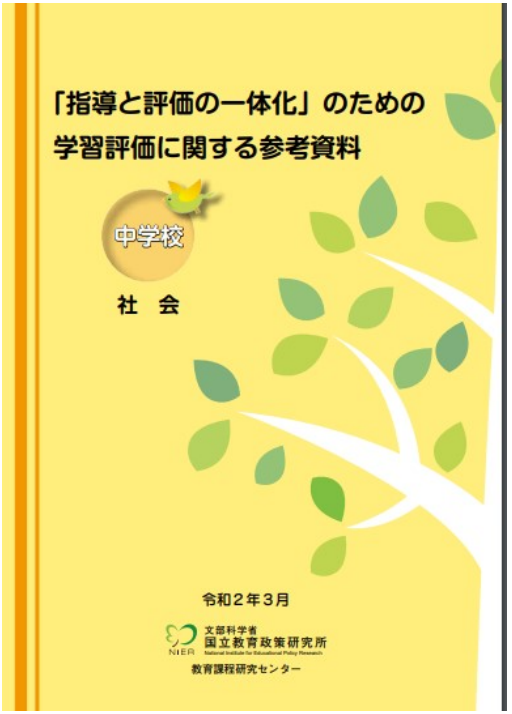
事例２　キーワード　評価場面の精選～重点化と系統化～
単元　中国・四国地方
（地理的分野　C(3)②「人口や都市・村落を中核とした考察の仕方」）

事例３　キーワード　大きな単元構成による指導と評価の計画
単元　近世の日本
（歴史的分野　B(3)「近世の日本」，補足：C(2)ｲ(ｳ)の「構想」を行う学習の事例）

事例４　キーワード　複数の項目を統合した単元の評価
単元　明治維新と近代国家の形成
（歴史的分野　A(2)「身近な地域の歴史」及びC(1)「近代の日本と世界」）

事例５　キーワード　指導と評価の計画から評価の総括まで
単元　民主政治と政治参加　（公民的分野　C(2)「民主政治と政治参加」）

事例６　キーワード　「主体的に学習に取り組む態度」の評価
単元　世界平和と人類の福祉の増大
（公民的分野　D(1)「世界平和と人類の福祉の増大」）



新学習指導要領に対応した学習評価
（中学校　社会科）

文部科学省
初等中等教育局　視学官
藤野　敦